

出口すみこ略年譜

	【明治】				
16年2月3日	なおと政五郎の三男五女の末女として綾部市の元屋敷東（現在の大本神苑内）で生まれる。七月児で、生まれた時は片方の掌の上にのるほど小さかったという。	41年8月	王仁三郎は金明霊学会を大日本修斎会に改組。	6年6月1日	大本に工芸課新設、手織機12台を設置し、機織りが本格化する。
19年	政五郎は大工仕事中、庇から落ちて負傷。さらに、前の年からの中風が慢性の酒毒のため重くなり病臥する。なおは紙屑・古物買いをはじめ、ときには糸引きへ。政五郎昇天。	42年 12月	王仁三郎は綾部に帰り、教団の組織化をすすめ、活動は活発となる。 大本に機織部を設け、絹紋織、手織木綿縞を織る。たびたび機場を訪れ、糸屑を集めて繋ぎあわせたり、縞模様などを指示。	7年4月18日 3日	つづれ織製品を鶴山織と命名。 愛善幼稚園を開設（亀岡。翌年7月愛善保育園として京都府認可）、幼児保育につとめる。
20年3月1日	この頃はじめて福知山の農家に、ついで米屋に子守り手伝いに行き、秋にかえる。	【大正】 6年	なおの大本神諭が「神霊界」誌に発表され、世の注目を浴び、全国宣教が本格化する。 なお昇天	10年3月	京都大丸百貨店の織物展覧会に鶴山織を出品。
21年	家は貧しく学校に行けず、山菜・野草を摘み、柴刈りなどをして母を助ける。	7年11月6日	亀山城跡入手	4月27日	草木染の染色保色処理を綾部・金竜海岸の鉱泉で実験し成功。9日には京都染色試験所で実証される。
22年	背は小さかったがわんぱくで、近所では「新宮の男八兵衛」とよばれていた。	8年11月18日	第一次大本事件おこる。王仁三郎は検挙され、教団と家計をささえる。ひそかに手織機を教主殿隣接の家屋にうつし機を織る。	5月17日	つるやま草木染つづれ織が第10回国画展で入選（東京・上野美術館）
23年	大槻（綾部市西町）の養子となっていた兄伝吉から糸紡ぎを習い、母に褒められる。ときには綾部で茶撰りの手伝いにいく。	10年2月12日	王仁三郎は「霊界物語」の口述開始		鶴山織を京都府蚕糸連合会創立50周年記念大共進会、ついで10月の全国手染織展（東京上野・松阪屋）に出品。「アサヒグラフ」6月25日号にすみこの鶴山織が「信仰に産まれた工芸品」と題して紹介される。
25年2月3日	なおに艮の金神〈国常立尊〉が神がかりし、大本開教。	10月18日 11年7月3日 10月8日	直日と北陸・東北の巡教へ（29日まで） 九州の巡教へ（11月3日まで） 北海道の巡教へ（5月4日まで）	10月31日 12月8日	王仁三郎は歌祭を再興し大本歌祭を第二次大本事件おこる。
29年	この頃、綾部市私市の農家へ2年余り農事・家事手伝いに行き、その間はじめて草木染と手機りを習いおぼえる。	12年4月23日 11月20日 15年	台湾の巡教へ（12月30日まで） 綾部で機織りにげむ。 全アジア民族会議に出席	11年3月10日	すみこは綾部署で大本の財産・土地処分権限の委任を強要されたが、「日本が奪われる型になる」と頑強に拒否、留置される。12日、身を案じた家族の懇請に署名・捺印して釈放される。
33年1月1日	王仁三郎と結婚。旧幹部による王仁三郎排撃運動がはげしくなる。	8月1日	（3日まで、長崎市）	3月14日	京都市五条署に留置される。7月1日起訴され、2日、五条署から中京刑務支所に収容される。
35年3月7日	長女直日生まれる。	【昭和】 4年10月12日	王仁三郎と旧朝鮮・満州の巡教へ	15年2月29日	第一審判決、治安維持法違反不敬罪有罪。
38年	王仁三郎は幹部の妨害排撃をさけ布教の旅へ。翌年京都の皇典講究所に学ぶ。そのため大本の財政は窮乏し、すみこは留守を	5年12月29日	王仁三郎と台湾巡教へ		

4月18日	王仁三郎は併合罪で無期懲役、すみこは治安維持法違反で懲役10年。即日控訴、保釈願却下される。 王仁三郎と大阪北区刑務支所へ移監される。	4月23日	祖霊社を復活。 手織機二台をすえ鶴山織工房を開く。その後、新町の倉庫に機場を移す(綾部梅松苑)。
17年7月31日	第二審判決、治安維持法違反無罪、不敬罪有罪。8月2日上告。5日、保釈決定されるが異例の検事抗告で延期。 王仁三郎とともに保釈出所。6年4カ月ぶりに亀岡の中矢田農園にかえる。 王仁三郎とともに、綾部の天王平共同墓地に当局の手で移されたなおの墓前に礼拝。 この年、手織機二台を中矢田農園の自宅にすえ、機織りを始める。農園では農事のかたわら短歌・茶道・謡曲・仕舞などの稽古がつづけられる。 大審院判決で上告棄却。 大赦令で大本事件解消。 大本事件解決奉告祭・慰霊祭。 愛善苑として再発足	8月22日	王仁三郎の喜寿を祝い瑞生祭を行う。 王仁三郎昇天。道統を継承し、苑主に就任。 このあと瑞祥館に糸くり器をおき糸つむぎにはげむ。 愛善みずほ会設立。食糧増産を推進。 亀岡保育所を開設(昭和26年5月12日大本愛善苑立亀岡保育園設立、現・愛善信光会亀岡保育園)
8月7日	9月21日	24年7月中旬	26年1月2日
22年	2月3日	2月4日	30日
12月5日	2月3日	8月24日	谷川徹三氏(当時・法政大学法学部部長)は天恩郷を訪れ、作品を鑑賞のうえ、すみここと面談。「そこに、絵や書と同じように、天真爛漫な、おおらかな、まことに堂々たる、今どきの人間に見られない風格を見た」と語り、書について「この美しさの正体を、私は何と喋っていいかわからない。強いていえば、それを天の成せる業といっているいかも知れない」と語る。 北大路魯山人氏、すみこと面談。その出会いの感動を、彼が主宰した雑誌「独歩」の創刊号に「……はじめて、すみ子刀自半切の歌を見ておどろいた。その字たるや魅力将軍太閤様ばりで実に天真爛漫、スケールが大きくて自由自在、こんな立派な字を書く人なら会ってみたいと云ったところ……」と記す。 綾部の彰徳殿横の旧事務所に機場を移し、寸暇をおしんで機織りにはげむ。 花明山窯芸道場完成。京都清水の伯山窯を移築 みろく殿建設を発表。 静岡の巡教へ(18日まで)。吉原市の二代教主歌碑除幕式に臨席、これが最後の地方巡教となる。
7月16日	2月3日	9月22日	27年2月4日
5月23日	2月3日	10月15日	22日
5月8日	2月3日	10月18日	3月31日
21年2月7日	2月3日	12月8日	すみこ昇天。
10月17日	2月3日	25年1月19日	
12月8日	2月3日	8月14日	
22年	2月3日	8月24日	
12月5日	2月3日	8月25日	
2月3日	2月3日	10月18日	

文中の敬称は略。なおは出口なお、王仁三郎は出口王仁三郎、すみこは出口すみこ、直日は出口直日を表す。